令和4年度　学校目標

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程　学習指導	・視覚障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための専門的な指導を系統的に行う。	①高い専門性と学びの系統性を踏まえた学習指導が行えるよう、研修や研究等の機会を通して、授業力向上を図る。	①学部・校務グループが横断的に連携を図り、授業研究を推進する。その際、校内の授業アドバイザーや外部講師を活用することにより、学校全体でよりよい授業づくりを目指す。	①視覚障害教育の専門性維持・継承のための研修や、授業アドバイザーや外部講師等による助言・指導により、授業力向上に繋がったか。
			②一人ひとりに応じたICT機器等の活用により、幼児児童生徒の学びが充実するよう工夫して取り組む。	②ICT機器等を活用するための環境をさらに整備しながら、支援機器を活用した多様な授業の実践を進める。	②個に応じたICT機器等の活用による授業を実践し、その成果を共有することができたか。
2	幼児・児童・生徒指導・支援	・幼児児童生徒一人ひとりの実態をふまえ、課題を的確に捉え、個別教育計画にもとづいた指導や支援を組織的に行う。	①個々の実態に応じた個別教育計画を効率的にチームで策定し、それに基づく指導・支援に組織的に取り組む。	①個別教育計画の策定、実施、評価が効率的に行われるよう、会議の時間設定等の検討を行う。策定については、専門職や寄宿舎指導員等の校内の様々な職種の職員がそれぞれの立場で参画し、チームによる指導・支援に取り組む。	①幼児児童生徒一人ひとりの学習指導や生活支援に関わる校内の様々な職種の職員がチームとして情報を共有し、課題を整理、理解し合いながら、目標とそのための手立てを検討し、それぞれの立場で役割を果たすことができたか。
			②校内支援体制のさらなる構築と周知に努める。	②校内支援体制の整備を図り、より個々の実態やニーズに応じた指導・支援ができるよう組織的に対応し、必要に応じ外部の専門職や他機関を積極的に活用する。	②校内支援体制の整備を行い、幼児児童生徒・保護者・職員への広報活動や、ニーズに応じた校内外の資源を活用した組織的な対応ができたか。
3	進路指導・支援	・幼稚部や小学部を含む早期から高等部まで自分の将来について主体的に考えられるように支援し、一貫した進路支援を行う。	①キャリア教育の視点を意識し、ライフステージに応じた進路指導・支援内容の整理と体験実習等の体系化を図る。	①各学部段階におけるキャリア教育を推進するため、基礎的・汎用的能力について、幼児児童生徒の実態を踏まえ、わかりやすく整理する。また、進路指導にかかる情報を幅広く収集し、生徒・保護者等へ発信するとともに、各学部での社会体験や実習等の体系化を図る。	①ライフステージに応じた進路指導の検討・整理を行うとともに、進路選択に向け幅広い進路情報を効果的に生徒・保護者に提供できたか。また各学部での社会体験や実習等の体系化が図れたか。
			②国家試験合格とその後の就労定着に向け、基礎知識や応用力を身に付けるための指導内容・方法の改善に努め、職場見学・体験実習の充実を図る。	②国家試験対策と就労定着に向け、定期テスト・模擬テスト・到達度確認テストの検証を通し、指導内容・方法を適切に改善し、個別最適な学びの実現を目指し、主体的な進路選択に向けた職場見学・体験実習の充実を図る。	②指導内容・方法の改善により国家試験合格レベルの実力を養成することができたか。また主体的な進路選択に向けた職場見学・体験実習の充実を図ることができたか。

4	地域等との協働	・関係諸機関や地域とのつながりを強化し、連携・協力・支援体制を確立するとともに、視覚障害教育や盲学校に関する情報を発信する。 ・自立と社会参加に向け、地域と協働し、社会体験・貢献する機会を創出する。	①視覚障害教育のセンター的機能の周知と一層の活用の促進を図る。	①視覚障害教育における地域のセンター的機能を発揮するため、関係機関等への周知活動や、就学前、小・中・高校等への支援をオンラインシステム等も活用しながら推進する。	①視覚障害教育のセンターとして学校だけでなく、行政機関、福祉、労働等の関係機関とのネットワークの構築やニーズへの適切な対応が図れたか。
			②視覚障害教育を必要とする人とつながるように、関係機関や各学校への広報に積極的に取り組む。	②県域の各学校、大学、医療機関、乳幼児健診機関等へ周知活動を精力的に行うとともに、ホームページ等において本校の取組を積極的・効果的に発信する。	②大学や医療機関等への広報活動の拡大やホームページ等における積極的・効果的な発信ができたか。また、ホームページの閲覧数は増加したか。
			③様々な活動を通して地域との交流や社会貢献に取り組む。	③コミュニティスクールを活用しながら、地域の資源の発掘や有効活用ができるよう、地域との交流、協働の在り方を検討し、幼児児童生徒の主体的な発信の場や自己実現の場を創出する。	③コミュニティスクールの活用により様々な活動を通して、地域との交流や社会貢献に取り組むことができたか。
5	学校管理　学校運営	・安心安全な学校作りを推進し、組織として指導体制や教育環境整備を進める。 ・カリキュラムマネジメントの効果的な推進に向け、組織整備を進める。	①感染症拡大防止対策をはじめ、防災対策等を十分に行い、安心安全な環境づくりを推進する。	①引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底するとともに、防災訓練や防災マニュアルの再整備を行う。	①全職員で安全に対する情報共有や迅速で柔軟な対応、マニュアルの整備等により、幼児児童生徒にとって安全で安心できる環境整備ができたか。
			②不祥事が他人事にならないよう同僚性を発揮した職場づくりに努める。	②不祥事防止を徹底するために、全員参加で月1回の学び合いの機会を設け、職員一人ひとりの当事者意識を高める。	②不祥事防止に向け、当事者意識をもって学び合える効果的な研修を計画・実施することができたか。
			③カリキュラム・マネジメントを組織横断的に推進する。	③各学部、また校務グループ及びチームが連携しながら「育てたい幼児児童生徒像」を全校で共有し、実現する取組を促進する。	③カリキュラム・マネジメントを組織横断的に推進することができたか。